

II. 判定委員会提出資料

- 添付③「

RC 造用

 委員会提出資料について」(P. 28) 及び
添付④「

S 造用

 委員会提出資料について」(P. 29)
を参照した抜粋版を提出してください。
- 委員会開催までに、必要部数（委員会案内時に提示します。）を開催会場に提出してください。
- 委員会終了後、指摘事項がある場合は、別添「委員会結果票」（様式③、P. 31）を受け、必要に応じ、別添「委員会議事録」（様式②-2、P. 30）及び指摘事項にかかる修正・追加資料を提出してください。
- 概要書については、判定委員の了解を得た最終のものを提出してください。

RC造用

委員会提出資料について

1. 委員会提出資料の種類等は下記の表によって作成してください。
2. 補強図はA3で作成して綴じてください。A1又はA2図面の縮小版でも良いですが、文字及び図面の判読が出来るようにして下さい。
3. 頁番号は部会時のものは残しておいても可ですが、わかりやすい場所に連番で頁を追加してください。

資料の種類	備 考
表紙	
耐震診断結果概要 又は、耐震改修計画概要	書式は最新版を採用すること。
概要裏面	建物の特徴が理解出来る代表的な階の梁伏図と軸組図（ゾーニングした場合ゾーニング図、補強位置図兼用）、代表的な各階の柱・壁リスト、主要な補強部材リストを添付する。原則A4サイズ一枚にまとめること。
配置図	EXP. Jの間隔及び変位角を記入。 対象建築物が識別出来るように太枠・ハッチ等に表示する。
意匠図	各階平面図・その他（ ）
構造図	各階伏図・軸組図・部材リスト（柱・梁・壁等の主要な部分） その他（ ）
写真（カラー）	建物の外観、内観が理解出来るように1頁にまとめる。
建物調査結果と細部写真 （カラー）	コンクリート試験結果、中性化試験結果を添付する。 その他（ ）
診断方針	診断方針を簡潔に記載する。
既存建物の耐力図 （伏図、軸組図）	各方向の部材耐力図（正負加力の小さい方）
〃 の耐震診断結果表	第2種構造要素、残存軸耐力の検討を行った、部位（位置）を明記する。
※ 補強方針	補強方法選定根拠を簡潔に記載する。
※ 補強建物の耐力図 （伏図、軸組図）	既存建物に同じ。
※ 〃 の耐震診断結果表	同 上
総合所見	建物の特徴、現地調査結果の内容、既存建物の耐震性能及びIsの決定要因、※補強策定の根拠、※補強建物の耐震性能及びIsの決定要因を簡潔に表記する。
※ 補強設計図	補強位置の理解出来る各階伏図、軸組図、代表的な補強部材寸法及び納まりの理解出来る詳細図
特殊部分の検討	片持ち梁・塔屋・外部階段・CB・その他の特殊部分で特に説明を要するものが有る場合に添付する。
部会の要求資料・議事録	部会時に特に必要とされた資料及び議事録を添付する。
その他	委員会提出資料は、建物の形状、現地調査結果及び不具合部分、既存建物の耐震性能、補強建物の耐震性能、補強方法等が理解出来るものとし、資料枚数は出来る限り少なくまとめる。（両面コピー可。） また、部会に提出した報告書一式（修正後）を1部提出する。

S造用

委員会提出資料について

1. 委員会提出資料の種類等は下記の表によって作成してください。
2. 補強図はA3で作成して綴じてください。A1又はA2図面の縮小版でも良いですが、文字及び図面の判読が出来るようにして下さい。
3. 頁番号は部会時のものは残しておいても可ですが、わかりやすい場所に連番で頁を追加してください。

資料の種類	備 考
表紙	
耐震診断結果概要 又は、耐震改修計画概要	書式は最新版を採用すること。
概要裏面	建物の特徴が理解出来る代表的な階の梁伏図と軸組図（ゾーニング図、補強位置図兼用）、主要な補強部材リストを添付する。原則A4サイズ1枚にまとめること。
配置図	EXP. Jの間隔及び変位角を記入。 対象建築物が識別出来るように太枠・ハッチ等に表示する。
意匠図	各階平面図・立面図・その他（ ）
構造図	各階伏図・軸組図・部材リスト（柱・梁・壁等の主要な部分） ・その他（ ）
写真（カラー）	建物の外観、内観が理解出来るように1頁にまとめる。
建物調査結果と細部写真 （カラー）	主要な実態調査図及び細部写真、不具合部写真・調査結果一覧をまとめる。その他（ ）
診断方針	診断方針を簡潔に記載する。
既存建物のメカニズム時の 応力図	各方向の主な架構の部材耐力図（表）及びメカニズム時応力図 （ヒンジ位置及び決定要因の分かるもの）
〃 の耐震診断結果	各方向の主な架構の耐震性能算定（ E_o 、 I_s 、 q 値の算定結果）
※ 補強方針	補強方法選定根拠を簡潔に記載する。
※ 既存建物のメカニズム時の 応力図	既存建物に同じ。
※ 〃 の耐震診断結果表	各方向の主な架構の耐震性能算定（ E_o 、 I_s 、 q 値の算定結果）
総合所見	建物の特徴、現地調査結果の内容、既存建物の耐震性能及び I_s の決定要因、※補強策定の根拠、※補強建物の耐震性能及び I_s の決定要因を簡潔に表記する。
※ 補強設計図	補強位置の理解出来る各階伏図、軸組図、代表的な補強部材寸法及び納まりの理解出来る詳細図
特殊部分の検討	片持ち梁・塔屋・外部階段・CB・その他の特殊部分で特に説明を要するものが有る場合に添付する。
部会の要求資料・議事録	部会時に特に必要とされた資料及び議事録を添付する。
その他	委員会提出資料は、建物の形状、現地調査結果及び不具合部分、既存建物の耐震性能、補強建物の耐震性能、補強方法等が理解出来るものとし、資料枚数は出来る限り少なくまとめる。（両面コピー可。） また、部会に提出した報告書一式（修正後）を1部提出する。

千葉県耐震判定委員会 ○造委員会 議事録 (記入例)

建物名称 ○○○○
 委員会開催日 ○○○○年○○月○○日
 診断者 ○○○○

No. 1

No.	指摘事項	対応方針	該当ページ	対応結果
1	(概要書)液状化のことを留意事項に明記して下さい。	平成23年の東日本大震災(震度5弱)での被害状況を踏まえたコメントを、留意事項に追記します。	概要書	留意事項に「平成23年の東日本大震災(震度5弱)では建物周囲に液状化による軽微な地盤沈下が見られた。このため、より大きな地震動では液状化被害が発生すると考えられる。」と追記しました。
2	(概要書)7 備考欄に、ゾーニングで耐震性能が不足するため、補強設計時には、両方のケースで耐震性能を満足させる必要があることを明記してください。	備考欄に追記します。	概要書	備考欄に「ゾーニングで耐震性能が不足するため、補強設計時には、両方のケースで耐震性能を満足させる必要がある。」と追記し差し替えました。
3	(S-3)青色表示の補強鉄骨ブレースの表記がリストにありません。確認してください。	補強位置図にて、青色表示の補強鉄骨ブレースの凡例が表示されておりました。差替えます。確認します。	P.S-3	追記し差し替えました。

RC造・S造 委員会結果票

平成 年 月 日

案件名

担当委員

診断者・設計者

結 果 ・ 適正

・ 適正 (指摘事項有り)

指摘事項 ・ 下記の通り

・ 後日指示
